፞፟፟፟ጞ፟ጜቚጜቚጜቚጜቚጜቚጜቚጜቚጜቝጜ 147454545454545454545454444

3月1日現在 П 7,310 (-2)男 $3,604 (\pm 0)$ 女 3,706 (-2)世帯数 1,672 (+1)カッコ内は前月との比較

新 年 特一**度** 分計計 決 る

施政方針の説明、 回定例議会は、 今月十日からはじまった第一 一年度予算に対する村長 十三日までに昭 一般質問の他

三十二にのぼる議案の審議など

今議会で審議可決された昭和

八%となっている。 国、県支出金二 一般会計予算の項目別予算と割 合いは地方公付金四九・一%、 に必要な歳入予算の主項目別割 伸びとなっている。 一方、これ等の歳出をまかなう 険、歯科診療、農業共済、 道、養魚センターで総額三億六 八・七%の伸び率を示した。 算を約二億三千万円上回る二 十億三千万 五十一年度一般会計予算総額は 特別会計は、国民健康保 角となり ニー・八%の 地方税 (村税) 所となり、 前年度予

水道料金が値上げになります

合いは下の表の通りです

発行所

新潟県中魚沼郡

中里村公民舘

毎月1回15日

1.部

5円

定価

月

定

例

会

の

ŧ

う

になります。

になっていた水道料金が値上りれ、昭和四十七年以来据え置きれ、昭和四十七年以来据え置き 今議会で村の簡易水道条例の一これは、水道施設の維持、修繕 って 異っていた料金の基準負担してもらう事と、 地域 などに要する費用を受益者から 7事と、 地域によ

備 債 育 防 木 生 生 会! I 務 휽| 費 費 費 費 費 費 費 費 費 費 費 OHO, 二八七、 一〇九、 四七、 四 <u>=</u> 五八、 れたもので四月一日から実施さ 三八 七〇五 三八八 000 六七七 四六二 四〇二 九四七 六九九 四〇二 七六九 八四七 一八八八 五一で 九

(昭和37年6月27日) 第三種郵便物認可) 第236号 か さ ح 昭和51年3月15日(4) を見でも、 なるばかりだ。一部でも多く斤一ダルをあばく。勢い世相は暗く とを急ぎ、争わなくてもよいこ のはない。 急がなくともよいこ あくせくしてやっと生活してい が生きている証拠かも知れぬ。 る「マスコミ公害」は、今日ほ サイドの面をクローズアップすれにしても、必要以上にダーク 側にも大きな問題がある。 のあろうはずはない。 正直いってホッとする。わずらにかかわらず、夕刊がないので をのせていたら、 をとりあげたらと思うが、 やラジオには、日曜や祝日など でも助かる。といってもテレビ わしいニュースに接しないだけ にかかわらず、 でもかこれでもか、とスキャン 思うに人間ほどあさはかなも スキャンダルを歓迎する読者 もっとマスコミは、明るい面 このはげしい悪と苦の中に 目をひきつって争ってい い時代もない。どちら お先き真暗で、 発行部数は激 子孫のために美田を買わず」と のかわからない。西郷隆盛は「 になる。ひとたび肉親が難反す 争いで、必ず骨肉相食む修羅場 かりに財を残しても、遺産相続 いった。味わうべきことばで、 なる身である。 り死に、 いと、何んのために生を受けた 朝に紅顔あって、夕べに白骨と につながれて生きている。ギリ 満足しない。 えらばず、いつくるかも知れぬ だけである。しかも死は老少を かならぬ私なのである。 その日ぐらしをする。これがほ る。すべてのものをとりそろえ ようとして、一生ガツガツして、 れも足りないと、日夜走りまわ で満足するかというに、決して 所の火事にも生きた心地がしな ければないで、 あせる。家があればあるで、 もっと人間らしい生活をしな りのところ、 人間はこういう繋欲のきずな ひとつ手に入れたら、 したがう 独り来て独りで去って 私は独り生れ独 手に入れようと ものは善悪の業 家がな 動会を行った部落があったりし今年で二年自。この日に雪上運 け合い。トン汁のサービスで腹 そこは参加者同志のよしみで分 加。午前中は講賢会で体をほぐ 民スキー たため、参加人数が心配された 同スキー場を会場とした大会は て、生死を超えることが出来よになる。あらゆる束縛が断たれ 仏心」である。 私の心中深くそなわっている「 した後宝さがし。中には一人で の財より心の財第一なり」とい っている。心の財第一なりとは の財より身の財すぐれたり。 れんで諸仏とともにひたすら求 道をすすめている。古聖は「物 れなもので、古聖はこれをあわ 好天に恵まれた去る七日、 煩悩具足のわが身を照破され まことに人間の一生などは哀 昨年を超える約六十名が参 村民ス 人間の日常生活の一切は もひろう人がいたが、 大会が開催された。 ーク津南スキー場で村 五夜のお月さままん丸 丰 7 争などを楽しんだ。 季節です。 大 したい。 ていますので、ごらんになりた センターのロビーに貼り出され 提に転換して、ご恩の生活に入 い方はおいで下さい 自利利他円満の活人剣にするに 出来る。 春は転出、 るほかはない。 タリティをコントロールして、 ィがあればこそ、当面大仕事も 当日のスナップ写真が総合 슾 殺人剣にもなる。 このバイ けれども両刃のやいば 開

この辺では日曜や国民の祝日 るかにあたまがいたい。

龍

吟

あ

わ

れ

な人

間

0

生

去口

がっている。無意識のうちに生

中里文芸

| 東風を背に遠く枯葉のとぶを見| | 一本 月

一月の冷えさだかなる灯を避られのえ

りも、罪障を残しておくような って遺産が仇になる。というよ 廷斗争が目に見えるようで、 るのは当然である。みにくい

ブラリト・イー・も適者生存の鉄則はシピアで、しか

勉学の子と灯は同じ夜なべ妻

三月投稿

しなやかに楓ねむらす春の雨

寂

子

へらの鈴裁ちて重ねて春の色

河橋の完工近しねこやなぎ

玉

深

雪

しつつ

きよう生きようとあせる。

ブラリとしてはくらされない。

れば、生涯再び会うことはない ミックアニマ

カネがなければカネになやみ

な

ネがあれば、どうして保全t

ごしらえをしてからは大回転競

私とは何ものか」に、 しばらく現実をそのままに「 内奥のぬ

◇盗っ人にも三分の理

◇握り飯を背負っていれば腹は┃◇ものも言いようで解がたつ

◇安物は身をたおす

手をはなれ風船ひかる雪しづ

吹雪く日々わが空百の刻流る

風邪にねて菊の一辨まで数う

みなれたる山肌荒き息吹見す

泥

児

涼

子

待春の食事にぎわす蕗のとう

のどかさや鳶の笛きく貝野橋

泉

Щ

海

人

꿭

照り返る冬陽に思う宮の松

こ子

開く扉に如月の夜はながれゆく

雪橋の薄き川辺や猫柳

子

追

風

織姫の窓明け放し春

カ

ゥ

Щ

きがたいエゴと対決して「玉砕

か

る

るが一人口は

村

0

「ことわざ」

定夫

採集

◇二人口は過せ

◇貧乏と影はついて廻る

◇悪ふざけは喧嘩のもと

◇子供は正直

◇十九の古ばば

二十五の小野

◇両手に花

◇来年の事を言うと鬼が笑う ◇用意して仕過ぎたことはねぇ

◇暗閣から牛を引き出す様

◇養理ほどつらいものはない◇勝負(かちまけ)は時の運

◇ゲスの逆恨み

◇卓起きは三文の徳 ◇寝る子は育つ

◇細いもんで月

過されぬ

◇目についた女房鼻につき ◇婿が三代続けばくらが建つ

◇稼ぐに追いつく貧乏なし

◇月の九日、 ◇地獄で仏 ◇立つより返事

日の七つ

砂 好 美

光 明

◇踊る雀百までも

◇氏 (うじ) より育ち ◇言うは易く行いは難し ◇朝願みるより夕願つくれ

◇味方千人敵千人 ◇馬子にも衣装

くともいう])

をつく (「短いもんで目をつ

◇顎で蠅を追う

◇疝気 (せんき) もつりよう

◇住めば都

◇房切れトンボ

うも,他生の縁

出し忘れた人は転出先からこち らの郵便局あてに葉書きで連絡 用紙は郵便局にありますが、提あなたの手紙が迷子になります れば、こちらへ来た手紙等を 転居届を出さないと 転入などの異動の

氏 幸雅 輝 父 太 郎 基 雄 名 往 来

俁 沢 落 廣田氏 9 新婦

名 天

华 酓 令 干部 溝 落

高橋美津子(三)十日町服部 辰雄(云)小 原 上原

辰雄(宗)小 東田灰 「こどもの歯と食生活」 末松 田小新宮中原敷中

三億六千九百万円十億三千万円

合 子 公 農林水産業費 災害復旧 教 消 土 尺 商 衛 総 議 項 (単位千円)

となり、増加分については17世島、芋沢、通り山は三百円) 如来寺、 給水量一〇mの料金が四百円 れます。それによりますと基本

予算編成方針説明

中里村長

所存であります。 業が五三・一%と増加しており 村の農家数は昭和四十年以降十 の振興を重点に施策を進めて参 努めなければならぬものと考え かな住みよい郷土の維持改善に地域の実情を常に把握して豊 方や住民意識の動向等をとらえ、 すぎず兼業農家のうち第二種兼 そのうち専業農家は六・四%に の六九・四%こなっております。 年間に八・三%減少し、総戸数 た農業センサスによれば、中里 ます現状から、国の農政のあり 中里村は誕生以来二十一年日 ましたが、昨年二月に行われ 中里村は一貫して農業 切な財政運営を図る考えであり、次の諸点について留意し、適一効率化に徹することを基本とし、 このような観点から、昭和五十 つ、景気の回復に資するための定と住民福祉の充実に配意しつ 経費の合理化、抑制と財源の重済政策と基調を併せ、一般行政 ので国、地方を通じて経済の安 は地域住民の生活の安定と福祉 と考えられます 施策を実施する必要があるもの 運営となることが予想されます 点的配分とに努め、経費支出の の充実に意を用いながら国の経 一年度の予算編成に当りまして | | 総合予算主義を建前とし、

の見通し等速かにキャッチし、投資的事業については特定財源、大の関係を当初予算に計上し、 定と住民福祉の充実を図るため、の効率化に徹し、村民の生活安 早期予算計上とその施行の促進 をはかる。 に財源の重点配分と経費支出

化、職員の新陳代謝及び配置転水準の適正化、事務事業の簡素 の節約合理化を図ると共に給与 統合若しくは抑制、庁貴、旅費 法例外負担金、補助金の整理

第236号

る施設を構ずるため、公共事業政事情の中で地域の発展に通ず

公共事業

入及び地方交付税の伸率が停滞

新年度は前年に引続き、税収

ます。

深く感謝をささげるものであり

村の情熱の結集によるご協力に

その間、村民の皆様の善意と愛 向上に寄与して参りましたが、 なって努力を重ね、住民福祉の な村づくりを目標に村民一体と

更に努力を傾注し実現を期するはじめ特定財源の確保について

増により依然として厳しい財政している反面、義務的経費の累

の整備等、 に重点をおき、道路交通の整備、予算原案の特色は農村整備建設 %の増加となっております。 千万円で前年度に比し二八・七 つもののある事を申し添えます。関との協議の関係から補正に俟 設、義務教育施設、医療施設等 産業基盤の整備、老人福祉施 県補助事業については関係機 早期執行を図る事とするが、国、 限り当初予算に計上し、事業の 巨投資事業についてはできる 般会計の予算規模は十億三

すことから、当村においても、一徴等が主な内容となっておりま置の廃止、自動車関係諸税の増 が見込まれ、新たに地方道路譲村税は前年に比し二五・四%増 る目的財源として交付される事 与税の二分の一が市町村道に係 る固定資産税の課税の据置き措

なっておりますが、個々の町村分を補填し一七・一%の増加と 付金、借入金等により国税減税税の三一%及び臨時地方特例交

山中の賊を破るは難川中の賊を破るは易く

とめ、財源の重点的配分に 住民の要望を率直に 配慮いたしました。

率の引き上げ、一般農地に対す方税関係では住民税の均等割税 セラオ文計画によりますと、地一歳入について五十一年度国の一年度国の一 地方財政計画によりますと、

地方交付税については国税三

を図る事と併せて景気対策に資 しようとするものであり、投資

それにも増して事業効果の増大に算入される等、財源の補充や こととはなりますが、償還金に起債は将来に債務負担を残す ついて交付税の基準財政需用額

あります。その間、明るい豊かり返るに極めて感慨深いものが

た。歳月の流れを振

義務的経費等は年度間を見通し

ております

歳出について人件費をはじめ

を図る考えであります。努めるとともに住民負担の軽減

となっております。

組んで参る所存であります。的事業については積極的に取り

数、耕地面積については一九七国勢調査結果による数値、農家 係る基準財政需用額のうち一兆。 用額の過天見積りとならぬよう ることとしており、基準財政需 業センサス結果数値等を使用す 五年農業センサス、林野面積に

加見込みに止めたのであります。

・ (本等、国、県の制度上の補助事 農道、第三期山振事業、老人福 農道、第三期山振事業、老人福 り、前年度に対し六・三冕の増の適用が停止されること等によ えられることにより事業費補正 二五〇〇億円が地方債に振り替 国、県支出金等の特定財源に

施する。

四林分改良開発事業 生活改善センター建設 巨山村振興事業

ブルド

ルドーザを購入設置する、作業道開設及び建設機

熊平牧場の新設を計

小出細戸線の継続事業を実 一川原圃場整備の実施と が村に大きな影響の現れること路線であって、開通の晩には我には関東から魚沼地方への最短

り宮中橋、宮中橋山崎間が予定良区の指定もうけており、廃渡

の指定もうけており、鹿渡、国道三五二号線の新規改

しを行い、事務能率等について 材等微細を経費についても見直 修繕費等消費的経費の増加に伴諸物価高騰により鶫用費、維持 雇よう等極減に努める考えであも創意工夫し、超過勤務や臨時 消費的経費の節減に努めること 全般にわたり合理的運営により を加えておりますことから行政 い財政の硬直化は一層深こくさ 一般消耗器

これが解

し、その振興を図りたいと思っ即応した態勢作りを強力に推進 いる限り農林業の振興に重点を 林業を更に合理的に、 おく事は当然であって、 中里村は農林業を主体として 現時勢に 現行農

道路交通の整備は極めて重

と交通は不可分であ

上。農道では如来寺、東田沢農小出大原圃場について調査費計 市之越の新規、県単による
葎沢 免道路をはじめ一般農道豊里、 では田代高石林道を新規に計 団体営七川農道があり、林道 図る考えであり、先般、議会議事の促進についても更に推進を 完成する事に努力いたします。 対し陳情を行ったとおりであり 員の方々と地元選出国会議員に りまして、十二峠、穴沢隧道工 又、宮中橋は本年竣工予定であ は当然のこととし、

中里村にとってよろこびの限り る夢の実現したことは、将来の道昇格の確定を見て永年にわた 所存であります。我が村におい保については全力を傾けて参る ては昨年四月、柏崎湯沢線が国 要でありますことから、 交通確

産業経済関係 械 施設の実現と併せ考慮すること 決次第実施に運ぶ所存であり から当初予算計上を断念せざる 土木建設事業 を得なかったものの たが保安林解除手続きの関係 紅畜産振興事業

又、導入牛については牧場

進する。

道規模の拡大と基盤の整備を推
う事業の促進を図る事により経

であります。この国道三五三号

七川、上川原圃場整備事業

一日も早く

あり大巾な増徴を余儀なくして て施設の維持、修善費の累増も の他ヤマメの試験飼育をとり人が、本年は食用鯉、ドジョウ等 調な経過をたどっております

営技術の進歩向上に伴い、各共近年、恵まれた気象条件と経 いる事についてご理解をいただ といたしました。 備を行い業績の向上を図ること れ、越冬池の設置及び施設の整

年に比し二〇、四%の増加を示 きにやって来るもの、態勢は常であります。災害は予期せぬと 済事業についてほとんど対象と 的経費の増加によるものであり に完備せねばならぬものと考え 予算総額は五千九十万円で前 喜こばしい限り を 限り細微にわたり調査計上いた 単独事業についても財源の許す 及び起債対募事業を優先し、村 民のご期待に応えますよう努力しましたが、本予算案がお認めしましたが、本予算案がお認め | 政連営に創意工夫をごらし、| げましたが、例年にも増して苦以上で全会計について申しあ 昭和五十一年度予算編成方針のする事をお齧い中し上げまして

養業センター事業 本事業は発足三年目を迎え順

十万円で、前年対比五四、二% ため医師住宅の新設をあげてお

十万円で、前年対比五四、一

固定資産課税台帳 縦覧延期に つ

て

(五十一年度)の課税台帳の登 されており、現段階では新年度 は土地、家屋の評価替の年に加等で御承知の如く、五十一年度 等で御承知の如く、五十 提出されております。 るものですが、改正案が国会を 正化の方向にもっていこうとす ら二十日まで固定資産課税台帳地方税法では毎年三月一日か を関係者に縦覧するよう定めら この改正案は固定資産税を適 す。このため、みなさんに縦覧録項目が未確定となっておりま 月になる予定ですが、この事は するのは改正案が決定するまで ので何分ともよろしくお願い の通知書も一ヶ月延期され 村議会の議決も必要となります

∄i

であるにふさわしい施設、設備を真の教育であると信じており 備を行うことといたしました。 教員住宅を建設することをはじ参る所存であり、本年は倉俣に 三ケ所、その他教育備品等の整 め、プールサイドの改善工事を ないまでも最善の努力を傾けて 到底満足できる状態とは申され の充実を充分考慮するものの 社会教育については、農山村 生及びたばこの吸殻等の不住末 消防防災関係 徹底、危険物保安管理等、予防 にまでおよぶ例がふえておりま ペい化等により被害も物から人可燃性建築資材と住宅の個室密 な熱器具の普及による火災の発 ついて村民の協力を要請すると すことから、事故の未然防止に 行政の強化に努めると共に消化 厨房、農事用にと手軽 早期実現を図りたい。 が、特別会計の性質から、企業がに一般検討と同様であります。 し、事業効果の増大を図ること 社の向上をめざして環境を整備に財源の確保に留意し、住民福 国民健康保険事業 を目標として新年度予算の編成 意識に徹し、経営の合理化並び 特別会計について 設置改善を図る考えであります。 義務的経費の増加に伴い、運 一百八十万円、施設勘定三千百事業勘定予算総額は二億三千

源の確保、施設の整備に多大な水は天からの授りもの、無料

なりません。生活水準のパロメの認識も又、一変されなければ

投資を必要とする事から無用者

ついては、環境衛生の面からもーターとも言われる水道事業に

重要な施策の一つであると 努めて住民負担の軽減を

出生前から老人にいたるまでりまして、福祉に関することは 更に、将米ある幼児、 日を楽しく過ごせるように努力 要は住民一人~~が今日より明 実現をめざして努力したい考え 実施する考えであります。 めにつくされた老人を対象に、そこで本年は、長年社会のた へと範囲を広めて社会福祉の 八福祉センターの建設を計画 その後の事まで奥深く果て ものを思わせます。 青年、壮 りまして、 教育について 管理に努力したいと考えており である小、中学校の教育こそ重次の時代を担う国民教育の場 頃、学校側に対して日本国民と 要な課題でありますので、日である小、中学校の教育こそ重 教育を要望しているところであ の個性ある人材に将来育ち行く 体力と共に成長する教育こ 中里村の住民としてそ 学問編向の教育でな

ŧ,

地域住民の意向を充分取り

号線改良工事の進捗状況と併

おります。運転者は勿論、一般ずこれの対策には厳心いたして

観光については、国道三五三

かわらず、

交通事故は後を断た

経過し順調な成果を上げてお

歯科診療は開設以来一年余を

を終ったものとみておりますこ

学童の虫歯治療は約七二%

ても考慮し、医師の確保を図る とから順次一般人の治療につい 所存であります。

貸付等組織の援助を続けて参る

機関の交通規制や取締りにもかすが、車輛の増加も伴い、関係 年々巨額の投資を行っておりま

参る考えであります。

されます事から併せて努力して 共に強力な国の財政援助が要請 化等十分な配慮をいたしますと

これらを中心に、産業育成資金

線改良について関係機関に強く

であり、本年は更に、小出温泉

るとともに、道路の安全施設のる機会を通じてP・Rにつとめ

住民、特に老人、子供等あらゆ

入れた上で取り組んでゆく考え

保健衛生について 住民保健と健康管理について

るものではありません。 って上位にあったものと自負し に比して住民の理解と協力によ おりますが、それで満足でき 中里村は従来より他市町

診療所があり、冬期間は貝野村総合病院があり、倉俣には村 区に上村病院からの診療所開設診療所があり、冬期間は貝野地 先ず医療面では、村の中央に上 喪失、 暇時間の増加等によって個性のにおいても生活水準の向上、余 たらしており、これに対応する喪失、地域連帯意識の減退をも

防火水槽七基の設置を計画、

計

とれた

財源不足額につ一八、一%の増加

同様となっている使とすることから、数

、数年来据置き

(五十一年度

施設の整備を続けて参る考えで

七百

施設勘定三千百

すが、料金は受益者負担を原則図らねばならぬものとは思いま

本年、可搬ポンプニ古、

七万円で前年度に比しそれぞ

(昭和37年6月27日) 第三種郵便物認可

か

لح

(3) 第236号

さ

社会厚生及び福祉について

南工観光関係

最近の社会経済の情勢から一

交通安全対策について

祉行政を実施して行くべきであがら、村には村にふさわしい福 国の社会福祉政策に呼応しな

路改良、舗装等の実施、除雪用国、県、村補助事業による道

県道改良、消雪パイプ施設、

り、医師確保の可能性も大きく に、新年度中には一般住民の歯 院、村立歯科診療所を有し、更

係回復と健全なる心身の練成と可分のものと考え、真の人間関

関する住民意識の昻揚に努め、防災についても人命の安全確

た。福祉行政が進むにつれ、医より充足することといたしまし

医

いては一般会計からの繰入れ

めに努力を続ける所存でありま 明るく豊かな国民生活形成のた

安全な環境づくりを推進するこ

とを基本として災害に対処する

りますが、特に老人医療無人 療費の増加はさけ難い現実であ

農業共済事業 きたいので

化、高額療養費制度等によるも

昭和51年3月15日

とり入れて道路を整備し、安全 ーザ購入等多くの事業を

な交通確保に努力いたします。

要となって参りました。 要となって参りました。 などなって参りました。

確立するため、道路交通条件の

地域の発展と住みよい郷土を

営にあたりましては経営の合理のがあり、今後の保健行政の連

なる被害もなく

改善は当然であり、そのため、